



復刊第75号

題字 吉岡 弥生

定款改正に想う

副会長 小俣喜久子



梅雨も早々に明け一足飛びに真夏のようなお暑さになりました。会員の皆様には益々ご健勝のこととおよろこび申し上げます。

昨年の京都の総会で決定致しました通り、今年も改選期ではありませんが、去る五月二十八日第二十三回総会が、東京・京王プラザで開催されました。会員の皆様のご協力により和やかな雰囲気の中で、平穩裡に会を閉じることが出来ましたことは、

誠に同慶に存じ上げます。

昨年来定款委員会において審議を重ねて参りました定款改正の問題は未だ決定を見ず、総会に提出する段階に至らなかったことはいささか残念でしたが、定款委員長の理事会で経過報告の中でも、短期間に決意出来るようなものではないようであり、また定款は安易に、改正するものでありませんし、この機会に十分に討議して禍根を残さないよう、立派な定款を作成して頂くことが全会員の希望と存じます。今までの支部会では、支部の意思が中央にとどかない云々と伺ったことがありますが、また支部会を開催しても出席者の顔ぶれが同じで、出席率が悪いともききました。支部の制度が改正さ

れても、要は会員の出席率が少なければ会員の真の声を把握することは難しいものではないかと存じます。日本女医学会は、勿論営利的な事業をする会ではありません。魅力ある会にするためには会員の皆様の意思の疎通を計り皆でつくり出さなければならぬと思えます。理事会は会員の声を代行する処で、役員が思い付きを話合う場ではありませんことを駄足させて頂きます。日本女医学会を理解し、益々発展させるために協力下さる会員の皆様が運営してこそ魅力ある会になると思えますし、同時に女医の昂揚に繋ることと存じます。何卒定款改正は充分にご審議を重ねて下さいますよう改正委員諸姉に改めてお願い申し上げます。

来る八月二十七日より、いよ／＼国際女医学会がドイツ西ベルリンで開催されますが、一昨年の東京会議の開会式のあの感激は一生の思い出として会員の皆様の胸中にあると存じます。そしてそれに、付随した様々の出来ごととも今は静かに回想されます。今頃はドイツの女医さん方も、ベルリン会議に参加する世界の友達のため準備に大変なことと存じます。私も東京会議で経験した目、ベルリン会議に出席して各国の女医の方々の活躍の様子を拝見し今後の日本女医学会の前進に役立つことが出来れば幸と存じます。最後に日本女医学会の将来のため会員の皆様が納得されるような定款に改めて頂き、会の益々の発展を期待いたします。

日本女医学会誌(第七十五号)昭和五十三年七月二十五日

目次

定款改正に想う.....	小俣喜久子	1
研究助成金候補者推せんについて.....	学術部	1
吉岡弥生賞を授賞して.....	高木 松江	2
”	松尾 周子	2
マスメディアと医療.....	山崎 倫子	3
定時総会懇親会.....	佐藤千代子	3
Circular Letter No.50 No.51.....	佐藤千代子	4
国際女医学会について.....	佐野アヤ子	5
議事録.....	佐野アヤ子	5
開業医、勤務医別会員数および会費納入状況.....	橋本恵美子	7
事務局だより.....		8
編集後記.....		8



研究助成金候補者推せんについて

昭和53年度研究助成金、助成該当者(本会会員で若い研究者中助成交付を希望される会員)を本会事務局または支部長宛て推せん下さるようお願い致します。締め切り期日は本年末日までに願います。なお次の書類を添えて推せんをお願いします。

- 一、自筆履歴書
- 二、現在の研究内容の概略

学術部

吉岡弥生賞を授賞して

東京都中野区 高木 松江



この度、はからずも昭和五十三年度、日本女医学会において、第十回吉岡弥生賞をいただきましたことは、身に余る光栄と存じ、深く感激いたしております。

たまたま地域の会員の先生方のご推薦をいただき、この栄に浴しましたことは、何とお礼申し上げます。よろしいやらわかりませんが、ありがとございました。

なき母が生前小児科医の中で、それを生かした独特のもの、医者でなければ出来ない様なものをもつ小児科医になる様にと常々申しております。

古手の小児科医であるということが多少でも問題のあるお子様をもたれたお母様達のお話し相手になればとかねて思ったことでした。

十余余り前、外来の患者さんの中に、言語の遅い、目の合わない三才児がおりました。

当時は丁度私共の外来を手伝って

いてくれました心理の学生と、相談の上、子供のプレーセラピーと、お母様のカウンセリングをはじめました。これがそもそものはじまりで、十年余りたつてしまいました。卒園後、そのお子様は現在も私方の絵画教室、習字教室に来ております。今後のことも考えていきたいと思っております。

こういふ方面の仕事に向つたことにつきましても、もと都立小児研究所におられた、小児精神科医であられた。平塚俊亮先生のお教え、息子の小学校の校長で教育者であり、心理学者であられた瀬戸尊先生、私の女学校の担任で、教育者で女性先覚者であられた中沢美代先生とお三人の恩師の方々の物心両面からのご支援のたまものでした。今は皆故人になられました。私の心の中にはいつとも生きていて下さいます。

また母をなくしてから三十三年たちましたが、いついかなる時も私の心をはなれる時はありません。

はじめは「めだかの学校」と称しましたが、中沢先生が、ご自分が以前になさつていろいろやつた家政塾の名前の「さざれ」といふものを下さつて「いつもお母様達のよい相談

相手になる様に」と申されました。以来「さざれ学園」と改称しました。また瀬戸先生は、心身の発達に問題のある幼児の治療教育は医学と教育学と心理学の三方面のものが一体となつて当るべきだと力説されました。

この様にして発足しました「さざれ学園」は、その後沢山の熱心な同志の方々、また家人全体のかぎりない援助のもとに細々と十年の歩みをつづけて参りました。今後最善の努力をはらつて、ごく小さい街の相談室で終始したいと思っております。

その代り卒園後もいつまでもいつでもでもお子さん達をみつめていきたいと思つています。

さざれ学園は瀬戸先生のお言葉の様に医療教育、心理の三味一体となり、心身の発達に問題のある子(特に幼児)の治療教育にあたりお子様はブレイク療法または音示療法を個人またはグループで行い、一方お母様とは教育者(友人で元校長)、心理カウンセラー、または私が相談に当ることになっています。

園児の為の年中行事としては、春は遠足、夏の合宿、秋に運動会、冬は楽しいクリスマス会、学期末には卒園児をおくるお祝会があります。年間を通じて数回の父母会をし、職員と父母との話し合い、楽しい思い出の八ミリ映写、お母様同志の話し合い等を行っています。

特に夏の合宿は信州富士見高原の

吉岡弥生賞を授賞して

兵庫県 松尾 周子



ささやかなさざれの舎(田舎や)で二泊三日、お父様またはお母様、お子様、その兄弟と職員、総勢五十名余り、お子様は職員がおあづかりして、お母様達にはしばらく若返っていただき度いと思っております。お子様達をねかせてからお母様と

職員達との話し合いは夜の更けるのも忘れてつづきます。すでに三回すぎました。今年もよい夏であります様に祈つて筆をおきます。ありがとうございます。

この度、吉岡弥生賞を授賞いたしました事は全く思ひかけぬ光栄でございますと共に、ある意味で重荷の様にも感じていましたが、授賞式後ホテルで一人になり、記念の楯に浮き彫りされました吉岡弥生先生のご立派なお顔を拝見しました時は深い感動でございました。

私が現在の仕事に着手した時、毀誉褒貶に心を動かさない、他に寄付を求めない、という二つのことを自戒の信条として深く心に定めました。今日まで十年間の経過は、毀誉褒貶

にもまれつつ、また数限りない多くの方々から温かい支援を受けて来ました。最初の信条に変わりはありませんが世間知らずの思いついた気負いであつたと恥じています。

私は昭和十二年三月、帝国女子医学を卒業しましたが、様々の事情で十分な研修も出来ぬまま廃疾に近い父の開設していた松尾医院を負う事になりました。

三十年に余る開業医生活の間に、私と結婚後より医学を習得した夫は卒業後二年にして戦没しました。私が五十才近くなつた頃、二人の息子も成人し、両親も世を去りました。子供と親への責任から解放された自由と、孤独の中で私は自分の第二の人生を模索して行きました。偶々、戦

前より二十年近く生保で診て来た一人老人が、自からの汚物にまみれ、孤独に死にました。この人の終末の為に諸方面をたずねましたがこうした貧しい患者が人間らしく死ぬところが得られませんでした。

清潔なベッド、温かい食事、必要な医療と看護は、どんな人にも必要であると思うけれど、多くの貧しく孤独な老人たちが同様の終末を経て死に至っている事が想像出来ました。

自分の力で可能な、ささやかな老人病院を作る事を目標として踏み出した道が曲折の中で、社会福祉法人の設立となり、特別養護老人ホーム開設に立ち至りました。志を抱いて四年後の、昭和四十四年五月、「みぎわ園」は兵庫県における民間人立特別養護老人ホーム第一号、としてオープンしました。

定員五〇名、用地四九三〇㎡に、一二五〇㎡の鉄筋コンクリート平屋建の美しい建物が郊外の緑地に生れました。昭和四十七年第二次増築し定員九〇名、用地七九六〇㎡、建物二二二〇㎡となり、五十二年には、楽しいラウンジを二階に持つ三五〇㎡の小さい増築が完成し、現在、建物三〇五〇㎡、定員一〇〇名となりました。

今日現在一一〇名の病弱老人が四〇名の職員に支えられてここで生活しています。

センチメンタルな出発ではありませんが、この十年間、誰にも訪れる「老い」と、老いにまつわる人間関

係の葛藤の諸相を毎日体験しました。六〇才になった四十九年秋、発心して「京都仏教大学、社会学部、社会福祉学課」の通信学生として三回生に編入学し、二年の課程に三年を費して昨秋卒業しました。プロとして老人福祉に取り組むべき必要を痛感し、諸外国の施設も見学しました。試行錯誤の積み重ねの中から道を見出し度い願いです。「みぎわ園」の命名は、聖書詩篇23によります。こ

マスメディアと医療 (別冊同封)

山崎 倫子・佐藤千代子
野村多賀子・森川みどり

第十六回国際女医学会のテーマ「マスメディアと医療」にもとづき、私共はメディアとしての主幹をなす新聞、テレビ、ラジオが毎日取扱う医学及び健康に関する情報について一年間の集計及び分類をした。そしてそれ等の情報に対する読者(私共の診療所を訪れた患者を対象)の関心をアンケートによって調査した。一方、医師側からみて、それ等の情報が医療上にとどの様に影響しているかを、日本女医学会員に依頼しアンケート調査を行った。結果として次のことを知り得た。一、マスメディアの医学及び健康情報は膨大な量であり、その内容は医学のあらゆる部門を網羅している。

のささやかな施設が、長い人生の旅路に傷き衰えた老人たちに取って安らかな、いこいの汀、であるように更には希望の泉を汲む汀ともなるようにとの祈りであります。しかも現実には、どんな苦勞もと覚悟した私がこの仕事で最も救われているのです。授賞に感じ許さるる時の間、心と力を尽くして励ませて頂き度いと思っております。 以上 一九七八、六、一六

二、読者もそれ等の情報に多大の関心を示している。
三、医師側からみて、それ等の情報を読者がどの程度理解把握しているかの状態、またその情報の取扱い方等によって、医療上にプラスマイナス二面の影響がある。
なお近來、医療に関する新聞記事の取扱いが医療担当者に故意に不公平な姿勢であると、過半数の会員が不満を表明している。その問題についての集約を付記した。

定時総会

懇親会

佐藤千代子

午後六時、京王プラザ、花の間において懇親会が開かれた。

参加者八十四名というちよっとさびしい感じをカバーして、それは久しぶりの懇親会というにふさわしい団欒のひとつであった。

会場はインターナショナルフットエの演出にふさわしく中央の主卓の料理を中心に、フランス料理、イタリア料理、中華料理、和食等々の屋台が周囲をとり囲んだ豪華さ。ホテル側も大サービスとか。国際女医学会開催以来すっかりお馴染みとなったあの部屋この部屋のプラザである。

三神会長のご挨拶。朝から評議員会、総会と度々のご挨拶やご登壇にも抱らず、相変わらずしゃきとした中に総会を円滑に終了された喜びのいろいろうかがわれ、ほの暗い照明の中でそのご麗姿はひとときわ印象的であった。

会長の挨拶に引き続き、前監事佐藤イクトヨ先生が感慨にみちたお言葉で乾盃の音頭をとられた。何はともあれ先はご馳走をと各自早速料理とテーブルの間を数往復、そろそろくつろいだ談笑のムードとなり、ここでこ

の年度に新しく支部長に就任された方々のご挨拶をいただく。上村家子徳島県支部長、山内千枝静岡岡支部長、中原由美子愛媛県支部長の三先生がそれぞれ責任の重さご抱負を述べられた。新支部長のもとで新生の気鋭にみちた支部活動がいよいよ盛んになることを期待して盛大な拍手が続いた。

久々の団欒ムードは上昇して会場から要望の声高まり予定にはなかつた余興の開始となった。

トップにはご存知、高知の小出生。突然何でも支度がないがと誰方かの長いスカートを拝借しての即妙な手品を見せて下さった。何時もながら本職はだしのお腕前に感服。次は「守安先生」の掛声にお顔の色もほんのり染り、マイクを持たれる指先にもムードの溢れた先生が壇上へ。「世田ヶ谷のエマニエル夫人がエマニエル夫人を歌います」さこそ、素晴らしい歌は会場を魅了して盛んなアンコール。再び「ろくでなし」を。リオネジャネイロの国際会場で美しいコカボナーナの海をクルーズした時、船上での交歓に歌われた守安先生におくられた外国会員の熱い感嘆の声をふと想い出した。次は突然のお願いにも抱らず「長老だから?」とにこやかに壇上へ立って下さった湯本先生。端正なお姿で思いがけない(失礼!)若々しいお声で英語の歌を。「神の真理は存続しつづけている」という意味の神を讃える歌であり、保育園の子供達にこの歌を英語

で歌って教えてあげるのよ...とあとで教えて下さった。次いで真鍋先生の「宵待草」静かな歌声は叙情にみちて少女の日の純情に誘いこまれる。最後に明石先生は白のパンタロンスーツに蝶ネクタイ。本日の黒白(?) 一点の紹介にふさわしく「黒田節」を。それぞれ素晴らしい余技に唯と感嘆して食べるのも忘れ時が過ぎる。「何も出来ないの」と仰言りながらユニークな挨拶をして下さった森田先生、重松先生。

二年、三年前の激動の状態から今、

Circular Letter No.50

March 4, 1977

国際女医会第16回国際会議について

皆様お元気ですか、次の事項を連絡いたします。

- 登録 なるべく早くする事、四月十五日以後は登録費が上がります。
- 学術会議 Paperは100位、フィルムも何本か来ています。演者は全文をDr. Heuserに、四月十五日までに直接送る事。
- Business Meetings 国際連絡書記及び幹部報告

総会	8月28日	12:30p.m.
"	8月29日	4:30p.m.
"	8月31日	3:30p.m.

連絡書記が国際会議に出席出来ない

静穏への流れ、その流動を凝視すると根底に流れる女医としての連帯意識の存在を感ぜずにはいられない。ふり返ってみると、当時の行動が思考がすでに夫々の記憶の中で整理され夾雑物が排除されて来ているのではないか。そして更に残った純粹なものこそ将来への糧となり得るだろう。そのためには無駄な歳月ではなかったのでは...と。

今日の懇親会に感慨を抱きつつ名残の盡きぬ想いで閉会となった。

国際連絡書記 佐野アヤ子(訳)

い場合、代理人を前もって通知する事。

- 国際女医会総会について 各国の女医会は理事会に一人代表を必要とす。会員二〇〇人加わる()とに理事一人増す。ただし一各国は五人以上の理事は出されません。各女医会には評議員を理事一名に五名選ぶ。例えば日本は五人の理事と二五名の評議員となります。
- 協議事項 総会の協議事項は出来るだけ早く送る。総会または幹部会において特に何かありましたら、すぐ知らせてほしい。

No.51 May 29, 1978

国際女医会第16回国際会議も間近になりました。皆様もベルリン滞在の準備に忙しく、またお目にかかれる事を楽しみにしています。我々は国際会長及びドイツ学術会議長との連絡にて非常に忙しく、次の事をよく読む事。

- I, 国際女医会総会 国際連絡書記の統計的報告書、総会次第及び役員選挙の候補者の名前はベルリンにおいて配布す。
- II, 国際女医会第18回国際会議(1982)の場所として、各国から招待及び学術会議の議題の提案も提出して下さい。
- III, 現在では招待状は India, Mexico, U.K. 英連邦及び U.S.A. から来ています。
- 21) 国際女医会費は年に一人 \$5.F. が続きます。
- 22) 他に討議事項があれば提出して下さい。補足する事があつたら申し出て下さい。

- M.W.I.A. Book 国際女医会先駆者の伝記は現在校正の段階です。本の費用はまだわかりません。
- 中近東及びアフリカの分科会 この分科会はJerusalemにおいて八月十三日より十九日の間に開催されます。演題は "Aspects of Nutrition and Malabsorption 栄養及び栄養の悪吸収状況" Social Programも会議後の Tour も企画されています。

出席なさりたい人は Dr. Suzanna Szkop-Frenkel 12, King Davids Boulevard, Tel Aviv
Martha Kyrle, M.D
Honorary Secretary

事、総会では報告の時間が無く Congress Reportに記載されます。15) 09年委員の名前を早く提出する事、表彰式で証書にして出席される委員に渡したい。

- 16) Dr. Ytrehus, Norway. 北ヨーロッパ副会長候補者が亡くなり、新しい候補者をさがしています。Dr. Robertsonは中近東及びAfricaの副会長候補から身を引きました。
- 20) 国際女医会第18回国際会議(1982)の場所として、各国から招待及び学術会議の議題の提案も提出して下さい。

- II, M.W.I.A. Book 女医先駆者の本は8月に出来ず。40ページでU.S. \$24.50, 相当重いから発行社から本人直接に送る方がよい。送る費用は別です。なるべく皆様にこの本を買って頂きたい。
- III, ベルリン会議に出席される方はなるべく小さな Present を国際女医会基金のために持って来る事。
- N, 学術会議の Program を出来れば Paper は8集までです。全文をまた送らなう方は至急 Prof Hedda Heuser まで来て下さい。

Martha Kyrle
Honorary Secretary

国際女医会について

- 国際女医会設立……1919
- 加盟国……37ヶ国 (連絡書記は各国より1名)
- 会員数 (1976年度) ……約11,000名
主なる加盟国とその会員数 (1976)
U. S. A. 1899 Germany 1300 Philippine 345
U. K. 1800 Holland 671 Canada 324
Japan 1577 Australia 552 Brazil 304
- 執行部
President 会長
Post President 前会長
President-Elect 次期会長
Honorary Secretary 名誉書記
" Treasurer 名誉会計
Vice Presidents 副会長
国際女医会は現在8地域に分れ、各地域より副会長1名。
1) 北アメリカ: Canada, U. S. A. Mexico
2) 南アメリカ: Brazil, Bolivia, Ecuador, Guatemala, Peru
3) 北ヨーロッパ: Denmark, Finland, Netherlands, Norway, Sweden, United Kingdom
4) 中ヨーロッパ: Austria, Germany, Switzerland
5) 南ヨーロッパ: France, Italy, Spain
6) 中近東及びアフリカ: Iran, Israel, Egypt, Nigeria, South-Africa, Madagascar
7) 中央アジア: India, Ceylon, Thailand, Vietnam
8) 西太平洋: Australia, Hong Kong, Korea, New Zealand, Philippine, Taiwan, Japan
- 会議
役員会は年に1回 (執行部及び委員会)
- 国際女医会議総会及び理事会、評議員会は5年に2回、各国女医会には理事1名、会員200人増すごとに理事1名加える、ただし5名までとする。評議員は25名。各国に於て分科会も出来る。
- Committee 委員会
1) Finance 財務
2) Fund-Raising 募金
3) Project 事業計画
4) Education 教育
5) Fellowship 国際交流
6) Public Relations & Publicity 情報及び宣伝
7) Topic & Scientific Program 学術
Finance 財務
General Fund 一般会計
別会計として
1) Travel Fund—会議の時、本部が開催国に移動する場合用いる。1958年London会議の残金で設立される。日本の例年の寄付\$500は主にここに入る。
2) Lovejoy Fund—主にPhilippine女医会議の残金よりの寄付
3) Jubilee Fund—主にAustralia女医会議の残金より出来る。UKの寄付も加わる。
4) P.R Fund—Dr. Morani 前々会長の集めたもの
5) Fellowship Fund—Brazil女医会議後に出来たもの
- 他の国際団体との関係: Economic and Social Council/UN (Observers) WHO
CIOMS→UNESCO
UNICEF
- Post Presidents 前会長 Honorary Members 名誉会員

理事会議事録

日時 昭和五十三年四月二十二日
(午後三時十五分～六時)
場所 至誠会館 四階会議室
出席者 (敬称略)
三神、小俣、山崎、稲葉、久保田、中川、野沢、福永、松岡、丸山、森川、守安、柳瀬、大西、尾中、川口、川島、佐藤、佐野、鈴木、竹内、野中、橋本、蓮井、平瀬、藤井、藤田、山口、山本、白浜、添田
欠席者 (敬称略)
川那部、大原、野呂、福島、八木、森
開会挨拶 三神会長
庶務報告 松岡常任理事
3月25日 吉岡弥生賞審査会、常任理事会、理事会を行う。
3月29日 日本女医の実態調査報告書を開発機関に発送する
4月1日 公益法人会計基準の説明会に長島会計士と事務局員出席
4月5日 学位取得者に対し当会入会勧誘状を発送
4月15日 昭和52年度会計監査を行う
4月18日 日本女医会50年会員(昭和2年、3年卒)を調べ該当事者54名に問い合わせた
故多賀葉先生ご遺族より香典の礼

状あり
。吉岡弥生賞受賞者高木松江先生より礼状あり
。日中友好婦人連絡会全体会議報告あり
。ILO東京支局より刊行物の送付あり
。寄贈本 パンフレット その他 婦人国際平和自由連盟第20回国際総会報告書、月刊前進座、ボイス、世論時報、全国婦人新聞、婦人展望
会計報告 守安常任理事
別紙のとおり3月分 承認
議題
一、定時総会について
別紙会務報告に従って訂正並びに審議を行った。
庶務
。総会、評議員会の往復はがき及び名札の件承認
。別紙評議員会式次第について
定款委員会報告の項目を入れること
。総会式次第についての訂正、順序の変更等
会計
。収入の部 剰余金の処分について検討
事業計画
会長提案事項
。吉岡弥生賞の名称について
吉岡弥生賞は不変のものであり荒川賞とは別に考えたいとの意見多数、後日荒川先生に理事会の意向を伝え決定する。

。奨学助成について
別に国際女医会議記念事業基金よりの予算の枠を設けることにつき検討
。国際女医会議記念事業基金の使途について
・事務所移転の件
・研究助成
・その他日本女医史の編集等良い案を出し総会にはかること。
学術部
吉岡弥生賞12月末までに公募する。奨学助成、大学関係の理事推薦により該当事者を決める。
講演研修会、11月11日及び12日に吉岡弥生賞受賞者を2名づつ講師としてお願いする案、学術部と会長、副会長に一任。
事業部 例年どおり
なお、収益事業の項を削除する。
渉外部 別紙どおり
広報部 別紙どおり
以上事業計画案 承認
予算案 吉岡弥生賞予算額の訂正 承認
二、定款改正について
別紙第7回定款委員会において決定した委員会案を山本委員長より報告あり。
理事会は定款委員会からの答申書を受けて、慎重に審議し、その後評議員会をひらき説明相談する。
三、その他
。昭和53年度会議(理事会)予定表
別紙のとおり決定。
。事務職員給料について

会計より10%アップ+aは行わないようにしたいとの説明あり。会計一任

日本看護協会よりの依頼の件 ILO看護職員条約、勧告の批准と適用に関する請願署名の協力について、日本医師会に準ずること

来年度の総会会場について 京王プラザに依頼すること 来々年度の総会開催候補地について

理事会議事録

日時 昭和五十三年六月二十四日 (土)午後三時十五分~六時

場所 至誠会館 四階会議室

出席者(敬称略)

- 三神、山崎、稲葉、久保田、中川、野沢、福永、松岡、丸山、森川、守安、柳瀬、大西、尾中、川口、佐藤、佐野、竹内、橋本、蓮井、平瀬、八木、山本、白浜、添田、森

欠席者(敬称略) 小侯、川那部、大原、川島、鈴木、野中、野呂、福島、藤井、藤田、山口

開会挨拶 三神会長 庶務報告 松岡常任理事

4月22日 年金委員会、常任理事

会、理事会を行う。

5月4日 評議員会、定時総会開催

5月13日 昭和52年度会務報告、

日本女医会誌第74号、日本女医の実態調査報告、年金加入案内、ルーベンタン中元セールパンフレットを発送する。

5月27日 国際女医会ベルリン会議参加者説明会をサンケイ会館と京王プラザホテルで行う。

5月28日 評議員会、定時総会を京王プラザホテルで行う。

6月13日 宮城、山形、岩手、福島

6月18日 宮城県支部会に三神会長出席する。

宮城、山形、福島支部より地震災害の見舞いに対し、幸い会員の中には大きな被害はなかったとの報告あり。

国際労働事務局(ILO)東京支局より、事務所移転の通知あり。日中友好協会より名称の変更ならびに新役員の通知あり。社団法人大学婦人協会会長、中村道子先生、就任挨拶あり。日本婦人有権者同盟会長、小池順子先生、就任挨拶あり。日中友好婦人連合会全体報告あり。

購入、厚生省大臣官房統計情報部編の「昭和51年医療施設調査病院報告」

寄贈本 パンフレット その他 ドイツ連邦共和国大使館よりドイツ文化史と経済史、月刊新医療クリニック、世論時報、ボイス、病院ボランティアだより、全国婦人新聞、月刊前進座、光のプレゼントニュース、婦人展望、浴風会、

国立婦人教育会館より「会館だより」、高知県支部より高知県女医会員名簿、京都国際社会福祉協会より国際社会福祉情報、東京都民生活局より婦人問題を考える報告書と東京都行動計画策定にあたっての基本的な施策の方向について、札幌観光協会より全国大会のおさそい、宮城支部より関清子先生をしのぶおもいで集、三神美和先生より「ふおん、しいぼるとの娘」大阪

大学医学部公衆衛生学教室より医学部女子卒業生の実態調査報告書

日本看護協会よりILO看護職員条約勧告の批准と適用に関する請願署名の依頼に対し、日本医師会に準ずることに決定したが、日本医師会では依頼を受けておらぬとの解答あり。

庶務より...図書貸出したします。会計報告 福永常任理事

別紙のとおり四月、五月分承認学術部報告 森川常任理事 吉岡弥生賞授賞候補者公募は女医会誌10月号に掲載 奨学助成金該当者推薦依頼は女医

会誌にて募集

11月予定の研修会準備のため、学術部と事務局員3名、国立婦人教育会館見学の予定。

11月研修会講演者決定。添田百枝、岡本歌子、龍知恵子の3氏。JIMS A日本国際医学生連盟に例年通り5万円寄付

事業部報告

柳瀬常任理事 年金今期加入者増加、新規加入10名増額3名、口数にして一九九口ふえた。今年は年金加入増加を強力にすすめたい。

庶務より

松岡常任理事 ルーベンタンの特許権は昭和56年迄である。事務局今年前期ボーナスに就て相談あり。

守安常任理事より 5月総会懇親会出席の通知があつて欠席された9名の方で、その後入金があった方3名との報告あり。

橋本理事より定期総会で二千百円の会費をとるのはいかがか。会長、山崎副会長、松岡常任理事より、会場費として当然である。尾中理事より鶴風会は同窓会館が出来てからはとって居らぬ。日本女医会には会館もないし、開催費用等は必要との諸意見あり。したがって会費は現状では必要とさまる。

三神会長より (a)国立婦人教育会館より (1)公開講座開催のおしらせ 日時 53年7月18日(火) 午後

2時~4時

テーマ 婦人と国際理解

講師 朝日新聞社論説委員 杉山幸雄氏

(2)日本女医会誌の寄贈依頼

(3)日本女医会会員名簿贈入申込

東京銀座(株)和光

(c)日中友好婦人連絡会より「講演と映画の夕べ」おしらせ

日時 53年7月7日(金) 午後6時

場所 東京YWCA(神田駿河台)

講演 「七・七」の意義と今日の情勢について

上原 篤氏

映画 「はだしの医者」(30分)

会場整理費 三〇〇円

(d)佐野国際連絡書記から佐野氏自身第16回国際会議に出席するために長期に渡る出張になるので日本女医会ファンドより1日3万円11日間の出張手当および往復旅費とを支出したい申出あり。

尚、演題提出の出席者にも補助したいが国際記念事業計画が定まってからにしたい。

了承 国際連絡書記報告 佐野理事

(1)一九七六年~一九七八年の会員状況 統計等の報告書

(2)国際女医会募金委員長としての報告書を7月15日迄に提出し、なお役員会、総会に発表する。

(3)一九八二年第18回国際女医会会議の場所一招待を持っている。

議題

現在インド、メキシコ、イギリス、アメリカより申し出あり。合せて学術議題も提出するように。
 ④今年第16回会議参加について、日本からの国際女医学会出席者から、理事5名評議員25名を選ぶ。理事は日本女医学会理事会において選出、連絡書記をふくめる事とし、その結果、理事
 ①三神美和 ②山崎倫子 ③佐野アヤ子 ④藤井倂子 ⑤柳瀬路子に決定。
 柳瀬、福永、藤井同点にて再度選挙、福永ひろ子辞退のため藤井、柳瀬理事に決定する。理事、評議員は国際会議総会には原則として各自責任をもって出席のこと。欠席の場合は前もって連絡書記に申し出のこと。

定款について

山本委員長
 定款委員会報告。日本女医数と日本女医学会員数との比が30%強の現状等説明後、山本委員長よりの依頼で山崎副会長の司会で、定款委員会の答申案を逐条審議する。第1章総則、第2章目的および事業、第3章会員、第4章役員および職員、第5章会議のうち「総会」まで午後6時となった為、次回7月22日午後2時から審議する事とした。
 以上 大西保乃

開業医・勤務医別会員数及び会費納入状況

支部名	会員数	開業医		勤務医		不明		支部名	会員数	開業医		勤務医		不明	
		会員数	52年度会費納入者	会員数	52年度会費納入者	会員数	52年度会費納入者			会員数	52年度会費納入者	会員数	52年度会費納入者	会員数	52年度会費納入者
北海道	92	58	39	31	19	3	0	岐阜	35	30	23	3	2	2	0
青森	41	36	33	3	3	2	0	新潟	28	20	17	6	3	2	0
秋田	36	20	15	12	9	4	1	富山	30	20	17	6	4	4	0
山形	20	10	8	3	3	7	2	石川	40	30	25	8	6	2	0
岩手	21	14	7	7	4	0	0	福井	26	21	15	3	2	2	0
宮城	58	31	23	20	9	7	0	三重	36	32	18	4	2	0	0
福島	48	41	28	7	3	0	0	滋賀	11	9	5	2	1	0	0
群馬	77	52	25	18	9	7	1	奈良	30	23	15	7	3	0	0
埼玉	102	69	44	12	8	21	7	大阪1	19	18	14	1	1	0	0
栃木	58	40	27	16	6	2	0	2	17	16	8	1	0	0	0
茨城	67	56	41	8	8	3	2	3	22	18	8	4	3	0	0
千葉	89	61	47	12	7	16	6	4	17	13	9	3	1	1	0
足立	35	33	28	2	1	0	0	5	14	11	7	1	1	2	0
荒川	18	13	9	3	0	2	0	6	20	15	7	5	4	0	0
板橋	22	18	8	2	1	2	0	7	15	9	7	5	4	1	0
江戸川	14	10	9	1	0	3	0	8	10	5	4	2	2	3	1
大田	75	49	33	15	8	11	6	9	30	25	15	3	2	2	0
葛飾	30	22	16	7	6	1	0	10	34	24	18	8	4	2	0
北	32	23	11	6	2	3	2	京都	52	33	19	13	5	6	1
江東	21	16	12	4	0	1	0	兵庫	129	90	56	32	17	7	2
品川	30	19	13	10	5	1	0	和歌山	30	21	10	9	3	0	0
渋谷	41	19	13	19	7	3	0	岡山	68	45	45	21	17	2	2
新宿	123	28	20	49	16	46	1	広島	113	74	10	31	9	8	1
杉並	81	54	33	20	11	7	0	鳥取	8	5	5	0	0	3	1
墨田	11	9	6	1	0	1	0	島根	25	18	15	4	3	3	1
世田谷	108	60	40	35	16	13	3	山口	27	19	11	3	1	5	1
台東	18	11	6	4	2	3	0	香川	45	36	21	7	3	2	2
中央	22	19	11	3	1	0	0	愛媛	21	15	10	4	2	2	2
千代田	13	8	5	4	1	1	0	徳島	37	27	19	9	6	1	0
豊島	38	28	17	9	5	1	0	高知	70	53	50	16	11	1	0
中野	70	41	29	21	12	8	0	福岡	66	37	27	20	10	9	5
練馬	45	32	22	10	4	3	0	佐賀	22	15	14	7	6	0	0
文京	36	13	7	16	5	7	1	長崎	25	21	15	3	1	1	0
港	39	20	14	16	6	3	0	熊本	40	33	29	7	3	0	0
目黒	47	27	20	15	6	5	2	大分	14	11	8	1	1	2	1
学内	87	0	0	84	47	3	0	宮崎	12	7	4	3	1	2	1
都下	151	107	78	36	24	8	1	鹿児島	17	13	5	2	1	2	0
山梨	38	34	33	4	4	0	0	沖縄	4	3	2	1	1	0	0
神奈川	206	129	104	53	34	24	7	50年卒	74	1	0	58	27	15	7
静岡	91	73	56	13	11	5	0	51年卒	70	0	0	51	23	19	9
愛知	196	152	126	36	22	8	2	52年卒	65	0	0	57	57	8	8
長野	45	37	29	5	2	3	2	総計	3,960	2,508	1,752	1,083	600	369	91

開業医・勤務医別会員数および会費納入状況について

前ページ参照のこと

先ず、この表作成に当って、全面的協力をして頂いた事務局のみならず、まに厚く御礼申し上げます。次に、この表の持つ意味について若干申し添えます。

会誌をよくお目通し頂いている会員方にはすでにお気付きのことと存じますが、従来から庶務報告(七三号)からは事務局だよりとして(中)に記されていますが、会員の動向で特にここ二、三年の現象として、会費を十年間未納の自然退会及び自発的退会者の数が増加の一途を辿りつつあり、従って現在会員数は当然減少、会費の方も減収という事態が起きております。その理由についてはいろいろありましたが、先ずその現実をよく知って頂きたいという点、更にこの現象を防ぐにはどうすればよいかという至上命令的課題に対する責任と努力をどのように消化してゆくべきか、をお考え頂きたいと思つたからでございます。勿論、全国各支部長先生の絶大なご理解とご協力が待たれるのは当然のことながら、何もかにも支部長に押しつけてしまふ安易な取りくみかたでは、この事態を解決するよき方便とは申せないでしょう。自分の所属する支部に会員が何人、開業医が何人、勤務医が何人、と見ていくだけでも参考になりましょうし、会費未納の方はその

時点で配慮なさることも出来ましよう。

以前にも申し述べたこととありますが、これまで日本女医会を支えて来た三女子医専時代の会員はそろそろ老令化が進み、あれもこれもと幅広い行動は取りにくくなって来つつあります。昭和生れの女医はその殆んどが勤務医若しくは無関心層という状況です。日本女医会の今後を考えると、ことは非常に重要になって参る訳でございます。

何とぞこの表を充分ご参考になつて、日本女医会に今一度温かい愛情をお示し頂き、会員各自がそれぞれの方法で会員の獲得にご尽力頂けましたら幸甚に存じます。

広報部 橋本恵美子

「新製品ルーペンダン」に今一度注目を。

「ルーペンダン」についてふり返つてみますと昭和四十三年五月、広島における日本女医会総会の時、会の仕事として発足し始めて以来、今年には十周年をむかえる事になります。昭和四十五年、万博会場の医療奉仕にはルーペンダンの収益金が会員の活躍の為に大いにその成果を発揮し、さらに昭和四十六年九月には全国県下の老人ホームに寄贈し多くのご老人のお役に立ち多数の感謝状が寄せられました。また一昨年八月東京で開かれた国際女医会の折には会場の一隅に「ルーペンダン」のコーナー

をおき展示即売し、インターナショナルにもアツピール出来ました事は大変喜ばしい事でした。お求め戴いた一般の方々にもオリジナルな製品として重宝がられている旨を耳にします時、会の仕事としての張り合いを感じますが一方、会の財源として大きな寄与もしておりますので今後大いに成果を上げたいと思つております。

製品としましては発足以来、時代に即応して機能的な面での改革をし、種類もふえておりまして私共はあくセサリーとして自分も使用し、また他方種々な方面にも利用して参りましたので最近ではいささか「ルーペンダン」への関心がうすらいだ感じが致します。

昨年春、発売された新製品クレール(バラ)(オニックス)は今の時代に合った若々しい斬新なデザインで皆様に新しい魅力となると思われれるものです。最近のテレビドラマ「Yの悲劇」(CBCテレビ)で左幸子さんがルーペンダン(デラックスのスタイルと思われる)をお着物に首から下げ帯にはさんでカッコよく使用されたシーンがあり好評でした。また皆様からご要望のありました和服用製品(帯にはさむ)も新製品として発売されました。今一度「ルーペンダン」に目をむけて戴きご協力をお願いする次第でございます。よろしくお願い申し上げます。

事業部

事務局だより

支部長変更(敬称略)

愛媛県支部長 中原由美子

福井県支部長 藤田きぬ

秋田県支部長 伊藤玲子

北海道支部長 中川甲子

会員物故者(敬称略)

多賀葉(岡山) 朝田和(大阪9) 田村八代(台東) 砂田スイ(世田谷) 鈴木栄枝(世田谷) 足助たつ(千葉)

入会々員(敬称略)

富山良子(大阪9) 水川安子(都下) 牧野みや子(品川) 風間玲子(目黒)

福島淑子(群馬) 谷野美実子(富山) 渡辺すみえ(神奈川) 栗山浩子(足立) 古川式(千葉) 田中亮子(宮城)

逸見てる子(埼玉) 植村塔芽(奈良) 白石公(都下) 萩原芙蓉(大阪9) 杉山太規子(目黒) 岸本桂子(杉並) 藤崎きよ(中野) 大谷淳子(石川) 中山寿子(徳島)

退会々員(敬称略)

沼賀邦子(50年卒) 松本タケ(大田) 奥野由貴子(50年卒) 九津見章子(北海道) 藤村芳枝(愛知) 諸富久子(都下) 跡見一子(神奈川) 北村イチ(栃木) 手島温子(神奈川) 山藤千佐子(大阪) 小林千枝子(島根) 原田トシエ(愛知) 岡田さと子(岐阜) 青木道子(香川) 杜雲峰(大阪)

2) 川田宣子(高知) 大饗雪(大阪) 5) 井上貞子(世田谷) 島崎千賀(50年卒) 別所芳江(杉並) 田井淑(高知) 林房江(大阪4) 前田千代枝(和歌山) 朝岡栄子(台東) 脇川伊豫子(愛媛) 前田絹子(富山) 井上節子(大阪3)

編集後記

〇 雨期を司る神様、今年はず心地が悪かつたせいかサツサと日本列島におさらば。熱帯夜のつづく日が6月から始まつたり、北九州では水不足に喘いで、全く、気まぐれ天気にはライラも余計増すというも。今回の会誌は、地方の香りを運んで下さる支部だよりが、少なく、少々さびしいものになりました。総会の記録も聞にあわないよう、今一つ読みごたえがありません。その替り、と申してはナンデスが、マスメディアと医療の別冊を同封しました。今夏西独で開催される国際女医会議で発表される内容と伺っております。出席される会員からいづれ会議の模様など記事にして預けることと思いますが、どうぞお目通し下さい。

〇 読むといえは今一つ、日医ニュース7月5日号に会長武見太郎先生の「プライマリーケアの理論と実践」が掲載されています。昨今プライマリーケアなる言葉は一つの流行語になっているみたいですが、正確な理解を持つ為に、ちょっと面倒くさ虫を追い出して勉強してみませんか。女性の平均寿命が男性を上廻ること5才、約78才になった。このほど発表されました。21世紀には4人に1人が老人ということ。老人保障問題もこれから大変です。老人問題即婦人問題、と考えてみると他人事ではありませんが、しかし、夫もなく子供もなく孤独を画にかいたような婦人の生きざまをみていて、長生きすることは幸わせなのかどうか考え込んでしまいます。ともあれ、老人性痴呆などといわれないよう努力したいものです。猛暑の折から会員のみなさまのご自愛を祈り上げます。(橋本記)

昭和五十三年七月二十日 印刷
昭和五十三年七月二十五日 発行
編集人 丸山 実
発行人 日本女医会
発行所 東京都新宿区市谷河田町19
社団法人 日本女医会
TEL (341) 〇九六八
東京都文京区本駒込 一七七一五
印刷所 株式会社 北斗社